

「はっち」は八戸の新しい魅力を創り出すところ。
いろいろな得意分野の人たちが「はっち」に集い、
まちの歴史や伝統を大事にしながら、
新しい価値を生み出していく…
そんな「はっち」の新しい未来を、
「はちみつ」は少しずつご紹介していきます。

タイムスリップ目録で歩く八戸中心商店街 はちのへ写真館



王藤よこさん(5歳の頃)
ウエスタン・
ドレスを着て、
着せられてポーズしています。



武部千賀子さん(2歳の頃)
三軒一邸食品館
サービスカウンター(十三日)
父の作業着を着て、
真ん中を歩いて、
下には洗面
物がくまぐまに



村上佳菜さん(2歳の頃)
さくら野百貨店八戸店
ドクターシーラブ(三日)
大好きなぬいぐるみに囲まれて
上機嫌です。



小野澤洋さん(3歳の頃)
朝日堂(十八日)
お祭りの日前から格好良く
法被を着ていました。



上村優子さん(2歳の頃)
なごみ座(十六日)
盛岡の公園にお花見に行ったときの
写真です。母の手づくりの洋服を
着ています。



松橋寿昭さん(3歳の頃)
メガネの玉屋(十三日)
ハバタケの展示会で
ウエスタン・ドレスのアイス
クリームをオーダーし
て楽しそうです。



亀井純子さん(3歳の頃)
ドトールコーヒーショップ
八戸二丁目店(三日)
家の前でお花見とハバタケ
月の手づくりソフトを
食べています。



金橋伊登子さん(3歳の頃)
ニューバングモリタ(三日)
七三三の時の写真です。

はちみつ

http://hacchi.jp

vol.2

はっちオープニング特別写真

道行く人とお店の方との間に
見えない絆を生み出します。

はちみつインタビュー①山本耕一郎さん

はちみつは美人が
みたいだよ

山本耕一郎さんプロフィール
1969年名古屋生まれ。筑波大学卒。英国ロイヤルカレッジオブアート大学院修了。八戸でも展開する「ニッポンのうわさ」シリーズや、小学生と一緒にまちの人たちの記念日が書かれたカレンダーを作る「まちカレ」など、人と深く関わるプロジェクトを全国で展開している。筑波大学非常勤講師。

「はっち」建設現場前のフェンスに貼られた大きなフキダシを
ご覧になりましたか？八戸や
「はっち」にまつわる「うわさ」が
書かれたこのフキダシの作品を
作ったのが、左写真の中央に
立っているアーティストの山本
耕一郎さんです。

この夏、山本さんは八戸に滞在し、中心街にある「はっちラボ」(※)にて、来年2月の「はっち」オープンに向けた準備活動を行いました。今回の滞在で山本さんが行ったのは、中心街の商店の皆さんから「うわさ」を聞き出す取材活動。その「うわさ」はフキダシの形にして、来年2月に店頭に掲げられます。

さて、それはどんな「うわさ」なのか。山本さんが選ぶ「うわさ」は、たとえば「この店長は新婚さんなんだって〜」「息子さんが学級委員らしいよ」といったものです。お店の方の趣味や自慢、得意技、お家のことや悩みなどが伝わってくる内容です。

フキダシによって見えてくるお店の方の素顔は、道行く人とお店の方との間に見えない絆を生み出します。会場には多くの人たちが訪れ、山本さんも市民の方々と交流を楽しんでいたようです。

2月には中心市街地がうわさのフキダシでいっぱいになる予定です。山本さんのアート作品が八戸にどのようなコミュニケーションを生み出していくのかお楽しみに。

木造模型造船の匠。
菅原さんの作品は
「八戸の宝船」である。

はちみつインタビュー②菅原武志さん

海が好き、船が好き、木工が好き。学校帰りは道端の木を拾っては家ですぐさま笛や水鉄砲などの木工三昧。そんな幼少期を過ごしてきた菅原武志さん(62)。八戸市白銀3丁目の交差点に工房「工作造船」を構える菅原さんは、今や木造模型船作者の第一人者として全国で書やファンを増やし続けている「八戸発ものづくりの匠」である。

15歳から約15年間の漁師生活を経て、(株)北日本造船の造船作業員として実際にたくさんの船を作る現場を経験。交通事故を機に退職したものの、実際の造船経験が今の工作に活かされているという。

菅原さんが現在製作中の作品は「はっち」に展示される全長1.4メートルの大作である。

菅原武志さんプロフィール
岩手県久慈市生まれ。約15年間の漁師生活の後、(株)北日本造船の造船作業員として28年間の経験を元に、2006年八戸市白銀に「工作造船」を立上げる。「顔面がなくても写真3枚あれば本物そっくりにお作りします」をキャッチフレーズに、美しい船体の曲線美、細部にまでこだわった部品、最終の塗装仕上げまで、予想をはるかに超えた出来栄が口コミで広がり、今では全国から注文が後を絶たない。

はっち観光展示事業

製作依頼のパターンは船の設計図も無く、写真数枚というわずかな資料のみ。約40日間で作上げる作品は、どの方向から見ても美しい船体の曲線、プロペラ、デッキ、船内調度品などの微細な見えにくい部品まで、ひとつひとつを木で作り、繊細な塗装(4回塗装)を施す。その手法は、とても独学とは思えない、ため息を誘う仕上がりにある。

「やわらかいイメージを出したいからね。お籠さんやダルマを載せることもあるんだよ」と話す菅原さん。近い将来「無島」を作りたいという菅原さんの目の輝きは、木工に夢中になっていったという少年の頃のままだろう。

No. 7月25日、日曜日(※) へえへえウォーキングツアー

まちなかの店で買い物はしたことがある。では、店主の話をじっくり聞いたことは…？
専門店の人ならではの深い経験談を聞きながらまちを歩くこのツアー。思わず「へえ〜」と唸ってしまう素敵な話にたくさん出会えます。

10:10 山口源兵衛商店

地域ごとにお茶の味の好みが違う！
八戸は甘めのお茶を好む人が多いのだそう。

5代目：山口義三さん

10:41 松橋商店

最近、花火の用途が遊ぶこと以外にも拡大しているそう。
しけた花火は天日干しすれば復活するそうですよ。

社長：松橋敬子さん

No. 11:05 呉服むらかね

女性の浴衣着付け講座を開催！
素敵な帯の締め方に、「へえ〜」と言うのを忘れて全員見入っていました。

専務：村井吉継さん／小泉智美さん

11:50 ジュエリー&アクセサリー キリハラ

取組役：朝原信彦さん

ルビーとサファイア、実は鉱物上は同じ石だそう
朝原さんの知識と言葉の数々は感動モノでした。

こどもたちの歓声、お店の人と参加者の会話。
ヨコちゃん、まちの魅力再発見の立役者になった。

7月30日〜9月11日の期間、八戸市中心街に開催の「ヨコちゃんを探せ!」。昨年の「八戸横丁アートプロジェクト」〜酔っ払いに愛を〜で誕生した「ヨコちゃん」でしたが、今年は子どもから大人までより多くの方々に親しまれ、中心街全体にちびちびめぐる企画となりました。10個見つけるともらえる缶バッジ1,000個は早々に無くなり、急ぎで追加するほどの大盛況ぶり。お店の人たちからは「ヨコちゃんが無かったら、一生こちらのお店を知ることは無かった」と言って再来店された方もいました。という声もあり、「はっちとアーティストとまちのヨコちゃん」が新しいコミュニケーションを生み出した大きな実績となりました。ヨコちゃん作者の八戸出身の美術家、竹本真紀さんは現在、横浜市内を拠点に活躍中。次の八戸でのアーティスト活動に期待ください。

お茶屋をにこやかにお迎えするヨコちゃん。場所によって表情がちがう。

参加者とお店の間にアルビゴをとりはめてくれた作者の竹本さん。写真展さんの店内では、こんなところにヨコちゃんがいっぱい。

お店のアクセントカラーにコーディネートされたヨコちゃん。

お茶屋をにこやかにお迎えするヨコちゃん。場所によって表情がちがう。

参加者とお店の間にアルビゴをとりはめてくれた作者の竹本さん。写真展さんの店内では、こんなところにヨコちゃんがいっぱい。

お店のアクセントカラーにコーディネートされたヨコちゃん。

お茶屋をにこやかにお迎えするヨコちゃん。場所によって表情がちがう。

参加者とお店の間にアルビゴをとりはめてくれた作者の竹本さん。写真展さんの店内では、こんなところにヨコちゃんがいっぱい。

お店のアクセントカラーにコーディネートされたヨコちゃん。

はちみつは 2011年2月11日オープンに向けてまちを元気にするプログラムを続々展開中です。

童話のワンシーンのような世界観のおもちゃたち。ユーモアのある動き、しめくは、見ているだけであったか気持ちになります。

青森ヒバ、赤松、ケヤキ、ブナ…それぞれの木の色や特徴で使い分けよう。年輪を使った「手」が迫力あります。

木を切る電動ノコギリを、少し体験させてもらえそう。すぐスピードで上下するノコギリに緊張…

右は高橋さん。左は私が切りました。高橋さんの断面はとってもきれいでした。

お題は「ハート」カブが難しい!

木を切る電動ノコギリを、少し体験させてもらえそう。すぐスピードで上下するノコギリに緊張…

高橋さんの経験や手に合わせて作られたオリジナルの道具たち。

「からくり」が正確に動くには、歯車がかんたうかみ合うことが大切。厚い木でも、大小の歯車にズレはありません。

はじめて作ったという木のおもちゃを動かす高橋さん。木が割れて割れ目に人が落ちそうになるからくりおもちゃ。ユーモアたっぷりの作風は、はじめてからくり作家

高橋さんの経験や手に合わせて作られたオリジナルの道具たち。

2011年2月11日にオープンする「はっち」。
1Fのはっちひろばでは、高橋さんのさんが現在製作中の「からくり獅子のからくり時計」が、賑やかな鐘打ちの音で時を刻みます。
製作中の獅子を少しだけ…
8体の獅子が時間とともにいっせいに歯打ちの様子、今からとても楽しみです。

はっちオープニング期間に開催される「踊りに行くぜ!!」八戸公演のダンサー山田珠実さんによる「ハルニティダンスワークショップ」開催。誰でも参加できる簡単なダンスです。

9月8日(水)
「踊りに行くぜ!!」ワークショップ

9月9日(木)
「ハルニティ」市民ライターワークショップ

9月25日(土)
第3回 へえへえウォーキングツアー〜八戸中心商店街編〜

はっちフロアガイドボランティア募集
はっち館内の観覧ガイド等によって、来館者に八戸の魅力を発信するお手伝いをしてくれるボランティアを募集しています。
募集期間：2010年10月8日(金)まで
応募資格：高校生以上(オープンまでに実施する研修会への参加が可能な方)
詳細については、電話、FAX、メール等でお気軽にお問い合わせください。

各種ボランティア募集
はっちオープン前から実施している様々なプロジェクトと一緒に盛り上げてくれるボランティアスタッフを募集しています。興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

はっち施設使用予約受付スタート
はっちのシアターやギャラリーなどの施設使用予約受付が9月21日(火)から始まります。
予約に先立 9月1日(水)から使用者登録の手続きができます。

カフェ、ショップ出店者決定
はっち1階にオープンするカフェとショップを運営する出店者が公募により決定しました。
カフェは、中心街三町目などにカフェを出店している側着彩組美奈さん。ショップは、中心街番町のほか県内各地にステーションナリーや本を扱うショップを出店している関山さんです。どちらも、はっちならではのスタイルで誕生しますので、ご期待ください。

【お気軽にご相談ください】
申込み・問合せ：八戸市 まちづくり文化観光部 八戸ポータルミュージアム開設準備室
TEL:0178-43-9579/FAX:0178-41-2302/E-mail: hacchi@city.hachinohe.aomori.jp/URL:http://hacchi.jp/